

石川 カープのリーグ優勝は、287万人と、過去最高を記録しました。これは、偶然ではなく、会議所が取り組んできた観光支援や市が取り組んできたことがこの結果につながったと思います。庄原にとっては喜ばしい1年だったと思います。

後藤 東城町商工会について話をすると、会長になって2年目で、新体制の商工会づくりに取り組んでいます。事務局組織も整ってきており、青年部・女性部も商工会にしっかりと力を貸してくれるようになってきています。ようやく自分の思う方向に事業を進めていけるようになり始めました。活気がある東城町のまちづくりには、商工会として活発に取り組むことができ始めた年ではないかと思えます。商業部・観光部・工業部も着実にステップアップしてきた年になりました。

市長 基幹産業である農業などの再生に取り組みたい。そして庄原の観光というネームバリューをもう一度磨き上げ、人を呼び込みたいと考えています。さきほど佐々木会長が話をしてくれましたが、平成27年には約10年ぶりに観光客数を更新しました。これは市だけでなく、市内全体で盛り上げていただいたからだと思います。

市の魅力づくりとして「日本誕生の女神」を発刊しましたし、いざなぎ街道物語もようやく形ができました。それをことしはどうかやってみようかと思っています。

また、比婆牛が大変好評のようですが、肉には酒があるかと思えます。庄原市にはおいしい日本酒がありますし、これはまだ模索中ですが、ワインについても工夫できないかと思っています。

そしてマツタケの生産についても、管理不足で山が荒廃していますので、山づくりも兼ねて、山の手入れをするため

の制度をつくり、マツタケができる環境づくりを支援したいと思っています。

さらにイノシシやシカによる大変な被害がでているので、これを逆手にとって、ジビエとして活用するための処理施設をつくりたいと思っています。そうすれば、雇用も生まれるので、その点も狙っています。

観光の面では、備北丘陵公園の北入口エントランスを借り、地域の活性化に利用する社会実験をするように進めています。そこを拠点に公園に行ったり、市内観光をしても良かったりと、観光の出発点にできないかと考えています。

佐々木 基本目標を、「頼りになる攻める会議所」をもとに、①政策、提言力、企画・実行



木山 耕三 市長
きやま・こうぞう

力の評価②企業の魅力・活力を引き出すお手伝い③雇用確保と人材力UPのお手伝いという3つの大きな柱にしています。

地域のまちづくり団体という形で、これまで一緒に手を携えてきました。定住も市が一生懸命取り組んでいます。行政の手の行き届かないところなど、調整役を会議所でできないかなどと考えています。

それと、高速道路の割り引きに向けた陳情・要望活動をしようと考えています。これは、庄原の観光誘致にとって



平成29年新春座談会

皆さん、明けましておめでとうございます。新しい年の幕明けです。今月は、平成29年への思いや庄原市のまちづくりをテーマに、庄原商工会議所会頭佐々木満さん（写真左）、備北商工会会長石川芳秀さん（写真左から2番目）、東城町商工会会長後藤茂行さん（写真右）と木山耕三市長による座談会をお届けします。

進行…行政管理課広報統計係

平成28年を振り返ると、どのような年でしたか。

市長 スポーツに始まりスポーツに終わった年だったと思います。特にオリンピックイヤーで、庄原市出身の金藤理絵選手が、広島県でも44年ぶりに金メダルを獲得しました。また、カープは25年ぶりのリーグ優勝を果たしました。

そして、大相撲庄原場所。大相撲の話がでて、お三方に相談したとき「開催しよう」と賛同してもらいました。まさにスポーツイヤーと言うにふさわしい1年でした。

佐々木 私の大きなできごとは、11月1日に庄原商工会議所の会頭に就任したこと。そして、会議所というよりは、まち全体を見ると、カープの優勝、大相撲庄原場所、そして金藤選手の金メダル獲得と、ここ数年、世相を反映して世知辛いニュースが多かったのですが、ことは、カープの優勝のおかげでまちが盛り上がりました。まさに「景気は気から」を実感しました。また、市内への観光客が



備北商工会
石川 芳秀 会長
いしかわ・よしひで

農業に関わる小売業者の創業を 支援し商工会を元気に

も、また市民にとっても非常に利便性の向上などの効果があると思っています。

あとは、企業にとって人口減少は、「消費」だけでなく、「労働力の確保」に深刻な影響を与えます。会社の福利厚生や、最近ではワークライフバランスなどの働く環境が不十分では求職者に見向きもされないと



たいと思っています。

ひとつ大きな課題として、人材育成、人材確保の問題があります。管轄内の全企業の、いわゆる中堅クラスの職員を集めた塾のようなものができないか検討しているところですが、単にスキルを磨くだけではなく、必然的に郷土愛が生まれるようなものになりたいと思っています。

石川 備北商工会は10年前に5つの商工会が合併し、平成29年の春に10周年を迎えます。合併当時の商工会員の数は467でしたが、現在は375に激減しています。合併して10年たちますので、一



深刻な状況になることが予想されます。行政に頼るだけでなく、会員企業も「自分ごと」として、子育て支援や社員の安住化などを重要な経営課題として取り組んでいかなければならないと思います。

石川 いかにして庄原市に住んでもらうかという課題があるのなら、安心して子どもを産み育てることができ環境



庄原商工会議所
佐々木 満 会長
ささき・みつる

頼りになる攻める商工会議所を目標 にまちづくりを

観的にまちを見る事ができません。特にオープンガーデンについては、受け入れる人は大変な苦勞がありますが、「庄原のために」との郷土愛のもとに取り組まれています。本当に庄原らしい立派な事業だと思えます。ですから、市外から見られたときには「庄原はいつもまとまっているね」と言われます。

若い人たちがいないと、企業もまちもだめになっていきます。子育て支援政策が最重要課題とされているのなら、徹底的にこれに人・物・金を投資していただきたい。企業も人口減少が進めば、売り上げの面でも人材確保の面でも



なったらよいでしょうか。まちづくりへの提言をお聞かせください。

画です。そんな中で、どうしてもしたいと思っていることは、商工会議所や備北商工会、そして市との連携を深めいろいろ企画に参画し、東城町商工会ももっと連携しつつさらにいいまちづくりができるのではないかと思います。それをぜひ進めていきたいと考えています。

―庄原市がどのようなまちに

市長 人口が減っていく中で、子どもたちやその親が安心して生活できるようなまちづくりをしていかないといいけないと思っています。

佐々木 わたしは26年前に庄原に来たので、もともと地域で生まれ育った皆さんより客



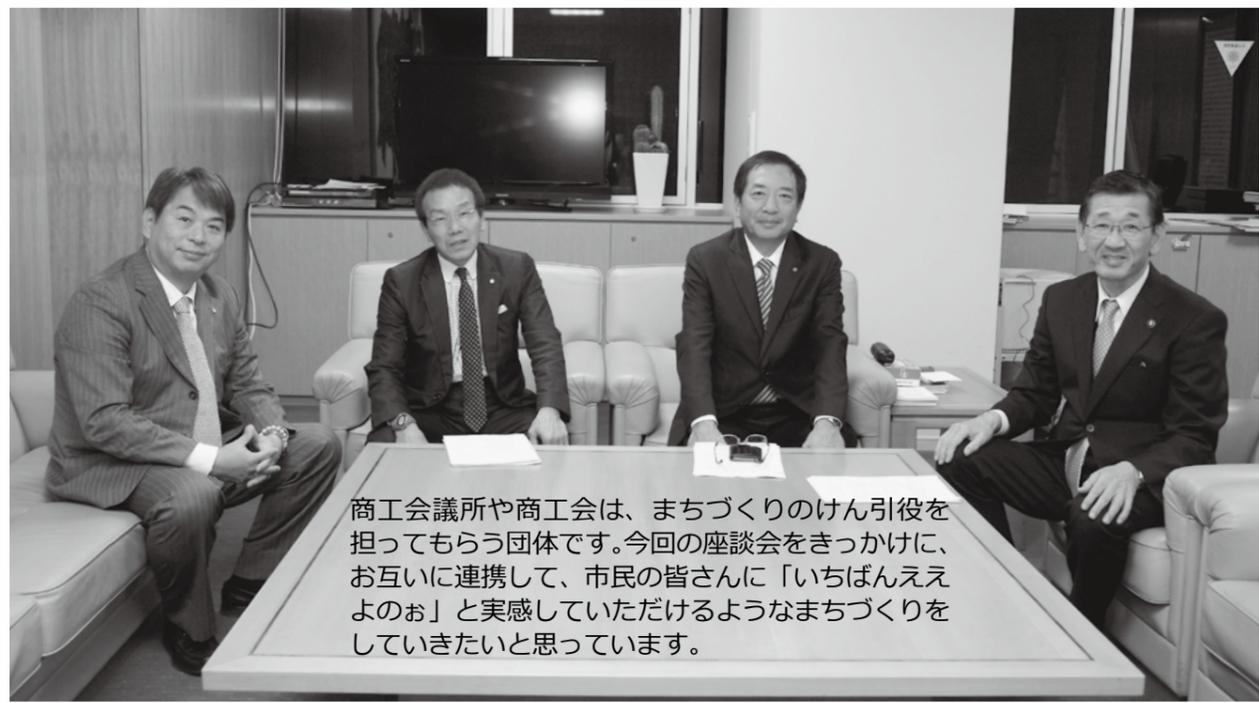
東城町商工会
後藤 茂行 会長
ごとう・しげゆき

行政と連携し 地域の企業づくりをしたい

をつくれればよいと思います。

また、縦割りのではなく横割りの事業が実施できればよいと思っています。そうすれば、お互いに連携をとりながら、効率的なお金の使い方ができるのではないかと思います。そして、今回座談会を設けてもらったのですが、商工会議所法と商工会法という、適用されている法律が違います。会議所と商工会は同じようなことを行っています。今後こういった話し合いのできる機会ができれば、効率的な事業展開ができると思います。

後藤 商工会と市がもっと情報共有し、連携を取り、商工会に頼ってもらいたい。市の融資制度なども商工会に任せてもらいたい。会社が大変なときは専門的な商工会に任せてもらいたいし、行政と商工会とで連携できることを模索してもらいたい。それで、地域の企業が強くなる方策と一緒にとっていききたい。商工会と市が同じようなことをするのはなく、得意分野を任せてもらうことが、これからの商工会・商工会議所の役割だと考えています。



商工会議所や商工会は、まちづくりのけん引役を担っていただく団体です。今回の座談会をきっかけに、お互いに連携して、市民の皆さんに「いちばんええよのお」と実感していただけるようなまちづくりをしていきたいと思っています。